

公益財団法人福武教育文化振興財団 設立35周年事業

教育文化活動助成に関するアンケート調査

—岡山県の人づくり、地域づくりにつながるより効果的な公募助成にするために—

報告書



(助成団体：一般社団法人にいみ木のおもちゃの会)

2021(令和3)年12月1日



人づくり、地域づくりを応援します
公益財団法人 福武教育文化振興財団

目次

本調査について

第1章 調査の概要	P. 2
1. 調査の背景と目的	P. 2
2. 助成事業について	P. 2
3. 調査対象	P. 5
4. 調査方法	P. 6
第2章 調査結果の詳細	P. 8
1. 各設問の回答	
I. 助成を受けた活動の2021年6月現在の状況	P. 8
II. 助成を受けた当時の変化や反応	P. 10
III. 財団のフォローアップについて	P. 13
IV. 財団への思い・要望・指摘・財団職員とのエピソードなど自由意見 さいごに（活動地域の変化について）	P. 16 P. 21
2. 回答に対する分析	
I. 財団の「助成の狙い」に対する分析	P. 25
II. フォローアップに対する考察	P. 29
第3章 総括	P. 31
1. 専門家からの提言	P. 31
2. 県内中間支援(岡山NPOセンター)からの提言	P. 32
3. 財団総括	P. 33
巻末資料	P. 34
1. アンケート依頼文	P. 34
2. アンケート調査票	P. 35
3. 2020年度募集要項	P. 36

本調査について

福武教育文化振興財団は、岡山県内で教育文化活動する団体・個人をひろく公募する助成事業を柱として、岡山県の人づくり、地域づくりを応援し、本年8月29日に設立35周年を迎えました。

35年の歩みを振り返ると、福武書店創業社長福武哲彦氏の遺志を継ぎ、福武總一郎氏が福武教育振興財団を設立しました。初代理事長には、元岡山大学大学長、当時兵庫教育大学学長の谷口澄夫氏を迎え、実践的な教育研究に対する教育研究助成を開始しました。

1996年には、既存文化の枠にとらわれない「生活文化」、広い視野から人間の精神活動すべてを「文化」と考え、文化の創造を目指す「福武文化振興財団」を設立し、文化活動助成が始まりました。

2007年、教育財団が20周年、文化財団が10周年を迎え、教育文化振興の両事業をさらに効率的に実施するため、2財団を統合し福武教育文化振興財団としました。

2021年度までの公募助成の累計は、3,354件、総額約6億8,241万円となります。岡山県の教育文化の発展にいささかでも貢献できたのではないかと自負しているところです。

本調査は、2008年度から2020年度に助成を受けられた団体・個人の皆様（約1,300団体）にご案内しました。その後の活動の成果や効果等をはじめ、財団が実施するフォローアップ（成果報告会や情報提供など、様々な非資金的な支援）や財団への評価・ご意見等について伺いし、今後の改善へつなげていくことを目的としました。

おかげさまで、508件もの回答をいただきました。お忙しいところご協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。

よりよい地域をつくることを改めて考え、より効果的な公募助成にするために、助成を受けて活動された皆様の声をまとめた、この報告書を活用して参ります。

2021年10月

公益財団法人福武教育文化振興財団

第1章 調査の概要

1. 調査の背景と目的

本調査は、公益財団法人福武教育文化振興財団の設立35周年を記念し、当財団における教育活動助成・文化活動助成両事業の追跡調査として、過去の助成対象者の2021年6月現在の状況を把握し、今後の事業展開やフォローアップの改善に役立てることを目的として実施した。

2. 助成事業について

助成事業は、教育と文化・芸術の両面から地域社会の課題解決と社会的価値の創造を図る活動を応援し、岡山県の人づくり、地域づくりに貢献することを目的に行う。1件当たりの上限は原則30万円で、岡山県内で教育文化活動を行っている団体・個人が対象となる。

1987年度から始まった公募による助成は、以下のような変遷を経て現在に至る。

1987年度～2015年度 教育研究助成

教育に関する実践的研究及び有意義な実践活動に対して助成し、学校教育及び地域の教育振興に貢献できることを目的とする。

2016年度～2018年度 教育活動助成

子どもたちの確かな学力を育てるための活動やグローバルな人材を目指す活動に対して助成し、教育課題の解決に貢献できることを目的とする。

1997年度～2018年度 文化活動助成

伝統文化の振興及び現代文化の振興に対して助成し、地域の活性化に貢献することを目的とする。

2019年度～ 教育文化活動助成

地域社会(コミュニティ)の活性化や次世代育成のために教育や文化芸術を活用する活動、教育の質や文化の質の向上や普及に対して助成し、地域が活性することを目的とする。

1987年度～	教育研究助成	文化活動助成
1997年度～		
2016年度～	教育活動助成	
2019年度～	教育文化活動助成	

図1 公募助成の変遷

本調査事業の対象となる、各年度における採択件数及びその所在地については以下のとおり。2008年度から2020年度までの総件数は1854件、総助成額は3億7935万円。平均採択件数は約135件、平均助成額は約22万円となる。

表1 2008年度から2020年度までの年度別助成採択件数と助成金額（両助成計）

	採択件数	助成金額（単位：万円）
2008年度	167	2780
2009年度	148	2790
2010年度	157	3110
2011年度	150	3150
2012年度	158	3095
2013年度	142	2900
2014年度	139	2975
2015年度	129	2870
2016年度	125	2825
2017年度	134	2835
2018年度	127	2805
2019年度	134	2800
2020年度	144	3000
合計	1854	37935

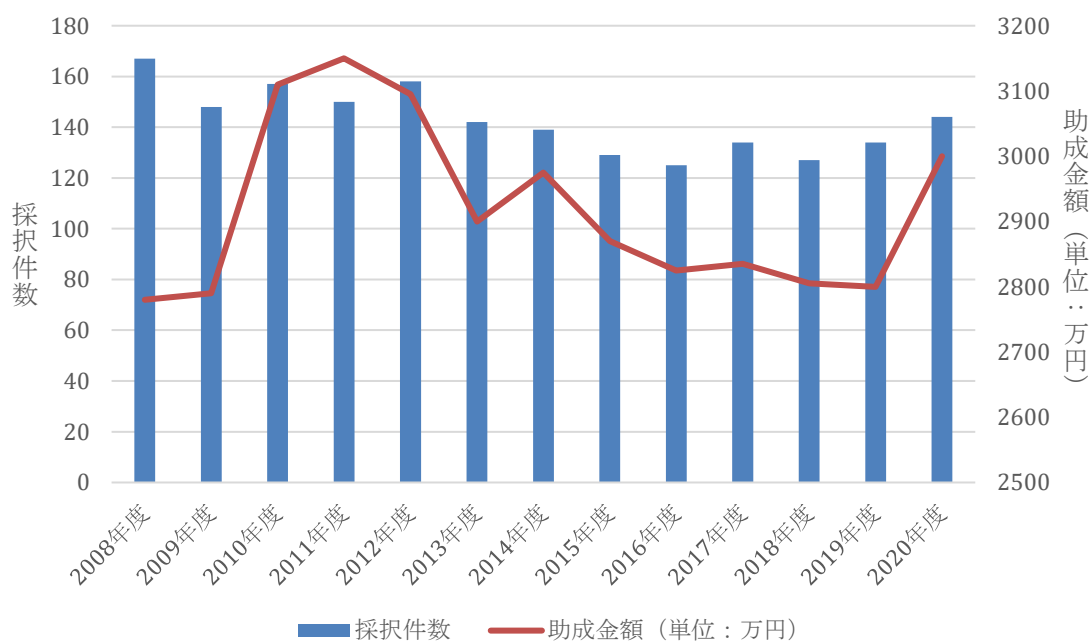


図2 2008年度から2020年度までの年度別助成採択件数と助成金額（両助成計）

表2 2008年度から2020年度までの市町村別採択件数

備前エリア		備中エリア		美作エリア	
岡山市	778	倉敷市	219	津山市	107
玉野市	51	笠岡市	49	真庭市	47
備前市	46	井原市	20	美作市	34
瀬戸内市	54	総社市	88	鏡野町	19
赤磐市	42	高梁市	44	勝央町	9
和気町	27	新見市	22	新庄村	3
吉備中央町	35	浅口市	38	奈義町	15
		早島町	17	西粟倉村	8
		里庄町	3	久米南町	9
		矢掛町	25	美咲町	27
その他県外					
18					

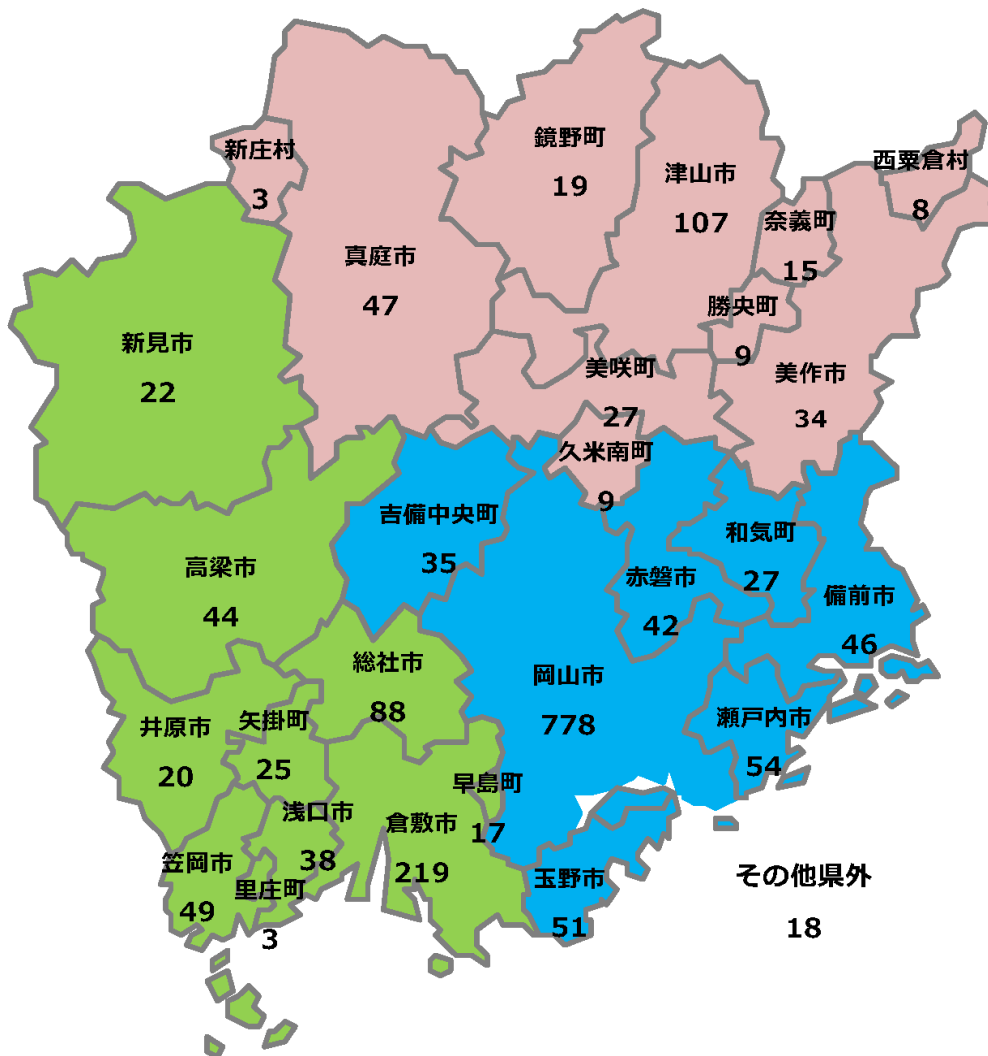


図3 2008年度から2020年度までの市町村別採択件数

3. 調査対象

2007年4月に「福武教育振興財団」と「福武文化振興財団」を統合し、「福武教育文化振興財団」として事業を開始した2008年以降2020年度までの13年間に助成を受けた団体・個人を対象とした。対象期間中に複数回の助成を受けた団体に対しては、最も近く助成を受けた年度の実績について回答を依頼した。

<送付先及び回答の内訳>

- ・送付総数：1,327件
うち、団体名称の変更、団体名称表記の変更等により95件、83団体が重複している。
- ・「回答不可」と回答した33件を含む、総回答は508件（回収率38.3%）。
- ・総回答のうち13件は団体情報未記入の為、属性は不明。
- ・住所変更等で80件が返送された。

<回答者の属性>

表3 年度別回答数

2008年度	22	2015年度	26
2009年度	31	2016年度	28
2010年度	28	2017年度	36
2011年度	28	2018年度	35
2012年度	33	2019年度	53
2013年度	34	2020年度	77
2014年度	33		

表4 市町村別回答数（両助成計）

備前エリア		備中エリア		美作エリア	
岡山市	166	倉敷市	57	津山市	36
玉野市	14	笠岡市	12	真庭市	10
備前市	14	井原市	7	美作市	10
瀬戸内市	17	総社市	21	鏡野町	4
赤磐市	14	高梁市	11	勝央町	4
和気町	3	新見市	4	新庄村	1
吉備中央町	6	浅口市	9	奈義町	6
		早島町	6	西粟倉村	6
		里庄町	1	久米南町	4
		矢掛町	8	美咲町	3
その他県外					
10					

4. 調査方法

用紙及びウェブフォームでのアンケート調査を実施。

- ・用紙へ記入したものをメールまたはFAXで提出してもらうよう案内を行った。
- ・全対象へ、メール便にて調査票を送付。用紙での回答またはウェブサイト上から回答ができるよう、回答フォームへ誘導する二次元バーコードを調査票へ添付した。

【実施期間およびスケジュール】

- ・調査実施期間：2021年4月1日～ 12月1日
- ・回答受付期間：2021年6月7日～7月31日 計55日間

表5 実施スケジュール

2021年 4月	調査先団体一覧の作成、調査項目の検討、調査票(アンケート)作成 専門家との打ち合わせ (アンケート設計および設問に対する助言)
5月	
6月	ヤマト運輸DM便にて調査票発送、以降回答受付
7月	回答の入力、集計、督促、入力フォロー作業等
8月	結果の集計、分析、報告書作成 専門家との打ち合わせ (アンケート結果および分析に対する助言)
2021年 12月	本報告書の発行

第2章 調査結果の詳細

1. 各設問の回答

本項では各設問の回答結果及び自由記述欄の内容について記載する。

I. 助成を受けた活動の2021年6月現在の状況

この設問では、助成を受けた活動の現在の状況について尋ねた。

「規模や活動内容を発展させて行っている」、「同規模の活動規模や活動内容で継続して行っている」、「規模や活動内容を縮小して行っている」と回答した団体は322あり、全体の67.8%だった。

記述内容としては、「順調に活動を発展させ、地域の街並み保存にも取り組んでいる。活動分野も広がり、全国の同様の団体ともネットワークもあり、街並み保存活動団体として認知実績も上がっている」、「若者とのコンタクトポイントをつくる施策として高校の進路ニュースを各高校生のタブレット端末に配信や学校外で大人の生き方や働き方を紐解くオンラインイベントの実施を行った」といった地域や学校とも連携した取り組みを行っている様子も窺えた。

また、「規模や活動内容を縮小して行っている」、「現在活動は休止している（再開の予定あり）」と回答した136団体の内、自由記述に「新型コロナウイルス感染症の影響がある」との記述が61団体にみられた。「コロナ禍でも可能な、開催場所や対象を限定したイベントを実施した」、「小規模でのオンラインワークショップや、情報交換などを行っている」、「今年度は、作品を作り、交流や研鑽に努め、来年度の公演に向けて準備を行う予定である」などコロナ禍に対応して活動を行っている団体があった一方で、「再開を検討中だったが、コロナの影響でメンバーや活動場所の状況が変化し再開には至れていない」、「感染症の状況を注視しながら再開も考えておりますが具体的な予定はありません」といった再開のめどがたっていない団体など、取り巻く環境や実施している内容によって様々な団体の様子が窺えた。

表6 助成を受けた活動の現在の状況

	回答数	割合
同規模の活動規模や活動内容で継続して行っている	146	30.7%
規模や活動内容を発展させて行っている	102	21.5%
規模や活動内容を縮小して行っている	74	15.6%
現在は活動を実施していない（再開の予定なし）	63	13.3%
現在活動は休止している（再開の予定あり）	62	13.1%
活動内容は他の団体に引き継いでいる	28	5.9%

(有効回答数475)

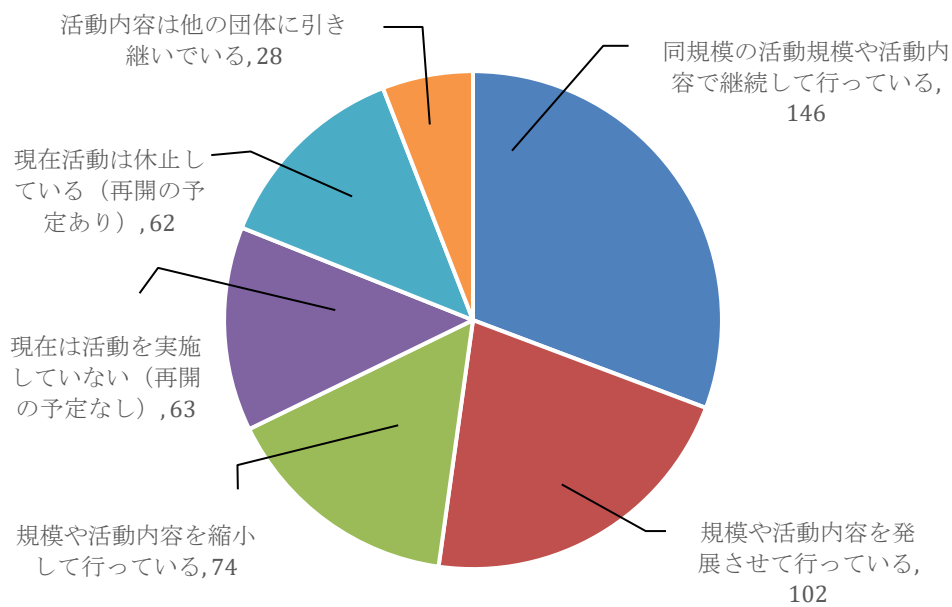


図4 助成を受けた活動の2021年6月現在の状況

Ⅱ. 助成を受けた当時の変化や反応

本設問では、当財団の助成を受けたことにより、「活動」（事業内容や事業対象者など）と、「団体」（構成メンバーや組織体制など）の両方について、それぞれどのような変化や反応があったか、問1・問2として尋ねた。

問1. 福武教育文化振興財団から助成を受けたことで、団体の【活動】には当時どのような変化や反応があったか（複数回答可）

この設問では、団体が取り組む事業のうち助成を受けた活動について当時の変化や反応について尋ねた。「活動の規模拡大の基礎作りに役だった」は最も多く294件回答があり、62.0%だった。

記述内容としては、「岡山県下で今までにない企画であることから、（助成採択により）基盤作りに役だったと感じている」「団体として活動を始めたばかりだったが、助成を活用したイベント実施を通して組織の基盤づくりを進めることができた」と活動対象の新規性のあるものへの効果や始めたばかりの活動への効果についての記述もみられた。

続いて、「参加者や地域のニーズが理解・把握できた」「マスメディア等で紹介された」の回答が多くなっている。ニーズの理解・把握について「全国的な組織からも一定の評価を得ることができた」「仲間内だけの意識が強かったが、他団体、多世代と交流したことにより取り組みが評価されていることを知るきっかけとなった」、マスメディア等での紹介については「助成を受けたことでマスコミにとりあげられ、他団体よりの講演、公演依頼も寄せられ、活動が広がった」といった声が寄せられており、活動がニーズに沿っていることや認知度の向上につながっていることが窺える。

その他の自由記述としては「助成を受けたことで自信につながった」「協力者やボランティアが増えた」等の意見が寄せられており、助成を受けたことで団体の内外において変化、反応が生じたことが窺える。

表7 助成を受けたことでの活動の変化（複数回答可）

	回答数	割合
活動の規模拡大の基礎作りに役だった	294	62.0%
参加者や地域のニーズが理解・把握できた	167	35.2%
マスメディア等で紹介された	163	34.4%
活動対象者や対象地域が広がった	151	31.9%
活動の連携先が増えた	140	29.5%
自主財源を得るきっかけになった	108	22.8%
影響はなかった	12	2.5%
その他	28	5.9%

(有効回答数474)

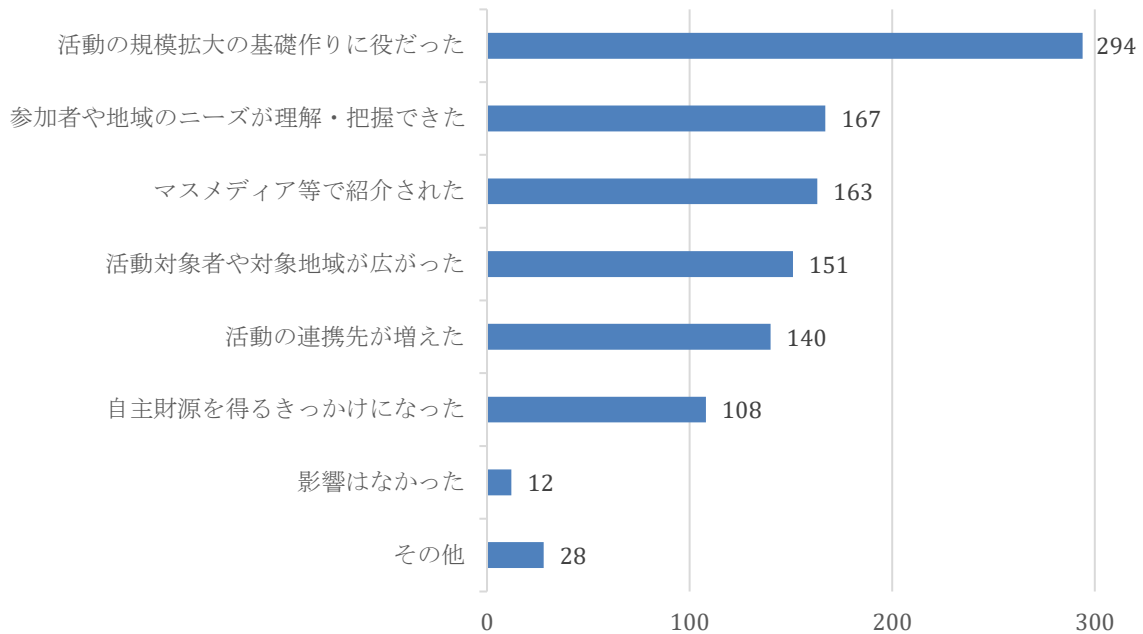


図5 助成を受けたことでの活動の変化

問2. 福武教育文化振興財団から助成を受けたことで、【団体】には当時どのような変化や反応があったか（複数回答可）

この設問では、助成を受けたことで団体・組織としての当時の変化や反応について尋ねた。「信頼度の向上に役だった」との回答が最も多く273件あり、57.6%だった。

記述内容としては「直接資金・人材獲得にはつながっていないが、明らかに行政・諸団体からの信頼度が向上したことを実感している」「劇団や作品の信頼度も上がり、観客動員にもつながったと感じた」と行政や関係機関との信頼が増し、新規の参加者の確保につながっている記述もみられた。

続いて、「知名度の向上に役だった」「新たな資源の獲得につながった」の回答が多くなっている。知名度の向上について「任意団体であるが財団の助成採択事業ということで社会的な信頼感が格段に向上し、活動自体に興味関心を持つ方が増えた」「障がいのある人の芸術に、今ほど関心がなかった社会に、活動の発信ができた」、新たな資源の獲得については「ネットワークが広がることで、他の取り組みにその資源を活用できた」「新規会員が増え、参画してくださる方々との連携が生まれた」と信頼が増すことで知名度が上がり、協力者の確保にもつながっていることが窺える。その他の自由記述としては「スタッフの力量・自信、ともに高まり、さまざまな外の場面で活躍するメンバーが次々に出てきた」「より地域を盛り上げて行こうと各自の意識向上につながった」などの意見が寄せられており、団体外の活動につながることや意欲の向上にもつながっていることが窺える。

表8 助成を受けたことでの団体の変化

	回答数	割合
信頼度の向上に役だった	273	57.6%
知名度の向上に役だった（マスコミ、地域での知名度等）	230	48.5%
新たな資源（資金・人材・ネットワーク等）の獲得につながった	214	45.1%
職員のスキルアップにつながった	89	18.8%
法人格の取得につながった	38	8.0%
影響はなかった	17	3.6%
その他	27	5.7%

(有効回答数474)

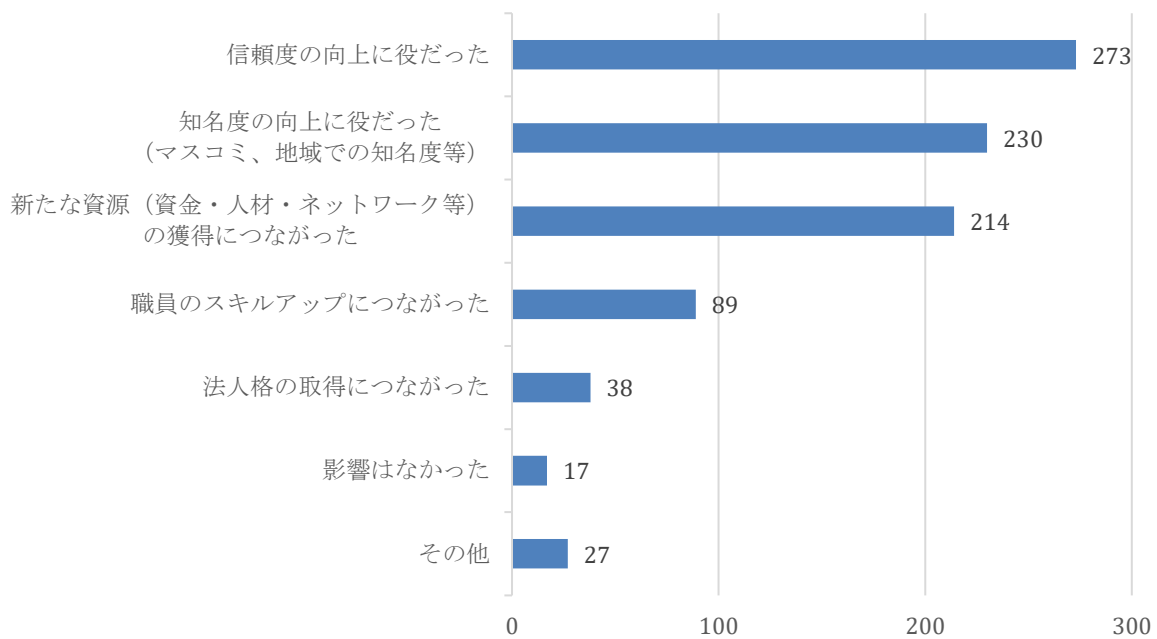


図6 助成を受けたことでの団体の変化

Ⅲ. 財団のフォローアップについて

問1. 福武教育文化振興財団が実施する助成金以外の支援(フォローアップ)として、これまで受けて良かったもの(複数回答可)

この設問ではこれまでに受けたフォローアップの中で受けてよかったものについて尋ねた。「活動成果の発表・公開の機会(成果報告会、成果報告書等)」に関する回答が最も多く266件、59.6%だった。

記述内容としては「他団体の活動成果報告を見て、今後の企画の参考になった」「より密接にお話を聞く事が出来、自身にもすぐに役立てたいと思う事がたくさんありました」と報告会や報告書などから今後の企画や団体の活動へ役だったとのことが窺える。

続いて、「他団体の事例共有・交流の場」「広報支援」の回答が多くなっている。他団体の事例共有・交流の場について「報告会でお逢いし、交流が親密となり講演会等の仕事の依頼を受けている」「多くの団体や関係者と交流でき、その後も継続している団体や個人もいる」、広報支援について「チラシ配布等広報活動に気軽に助力された」「facebookで掲載されたことで団体のfacebookを立ち上げるきっかけになった」など交流が現在も継続し活動や団体運営に活かされていること、広報面も強化されたと感じていることもわかった。その他の記述としては交流会への参加や助成金の採択によって活動に対する自信や他団体との連携につながったとの意見も窺えた。

表9 これまでに受けてよかったフォローアップ(複数回答可)

	回答数	割合
活動成果の発表・公開の機会(成果報告会、成果報告書等)	266	59.6%
他団体の事例共有・交流の場(交流会、成果報告会等)	195	43.7%
広報支援(Facebook、ウェブサイト、FUEKI等)	116	26.0%
申請時の相談(andF相談会等)	86	19.3%
財団主催のセミナー等(andF教室、フォーラム等)	61	13.7%
他団体の紹介・マッチング	59	13.2%
財団職員による現場訪問(イベント・発表会の視察等)	59	13.2%
助成を受けた後の個別相談	48	10.8%
新型コロナウイルス関連(オンライン相談、エリア別情報交換会等)	26	5.8%
その他	28	6.3%

(有効回答数446)

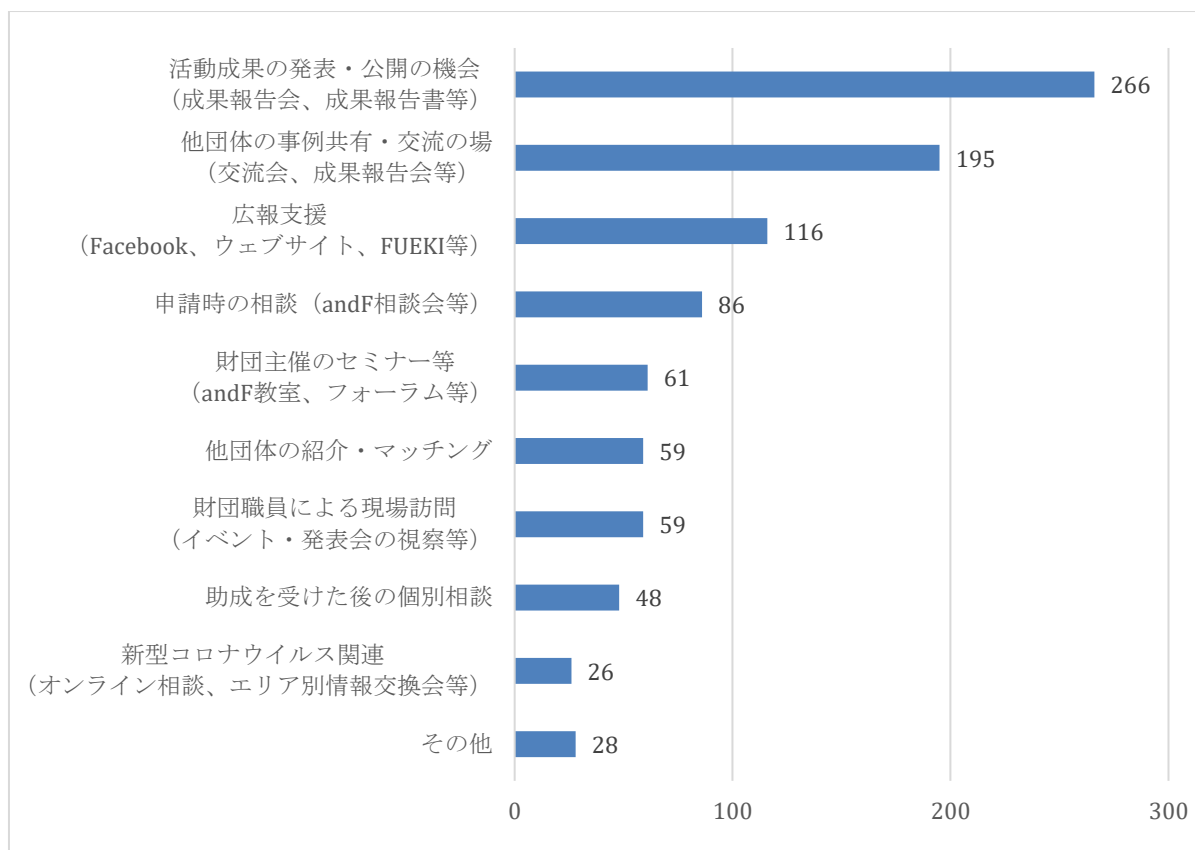


図7 これまでに受けてよかったフォローアップ

問2. 福武教育文化振興財団が実施する助成金以外のフォローアップとして、今後受けてみたいもの（複数回答可）

この設問では財団のフォローアップの中で今後受けてみたいものについて尋ねた。

「他団体の事例共有・交流の場（交流会、成果報告会等）」という回答が一番多く、190件、43.0%の回答があった。

「普段では接触が難しい他団体の方との交流機会が増えると嬉しい」「類似した研究内容の小グループの発表、意見交換が重要かと思った」「例年の成果発表会は、懇親会や授賞式と一緒になっていて、一部の団体が不十分な舞台で観客は受賞関係者のみなことは残念」と同じ傾向の団体とだけでなく多種多様な団体との交流を望むことや成果発表会の広い参加に関する意見もみられた。

続いて「広報支援」「他団体の紹介・マッチング」の回答が多く、「広報支援」では、「活動の広報に必要なチラシの作成講座やホームページなどのSNS活用術などの情報提供もあればうれしい」「同じ場所で過去の助成事業に関して引き続き取り組んでいるので広報支援してほしい」、他団体の紹介・マッチングについて「活動内容の公開可能な団体があれば一覧がみたい」「他団体とマッチングできる場がもっと欲しい」と過去の事業に関する広報支援やマッチングのニーズについても確認できた。その他の自由記述においても、現場訪問のニーズ、他団体だけでなく財団ともつながりを持ち、想いを知ってもらいたい、共有したいとの声が多かった。

表10 今後受けてみたいフォローアップ（複数回答可）

	回答数	割合
他団体の事例共有・交流の場（交流会、成果報告会等）	190	43.0%
広報支援（Facebook、ウェブサイト、FUEKI等）	167	37.8%
他団体の紹介・マッチング	131	29.6%
活動成果の発表・公開の機会（成果報告会、成果報告書等）	128	29.0%
財団主催のセミナー等（andF教室、フォーラム等）	122	27.6%
財団職員による現場訪問（イベント・発表会の視察等）	92	20.8%
申請時の相談（andF相談会等）	77	17.4%
助成を受けた後の個別相談	57	12.9%
新型コロナウイルス関連（オンライン相談、エリア別情報交換会等）	53	12.0%
その他	28	6.3%

（有効回答数442）

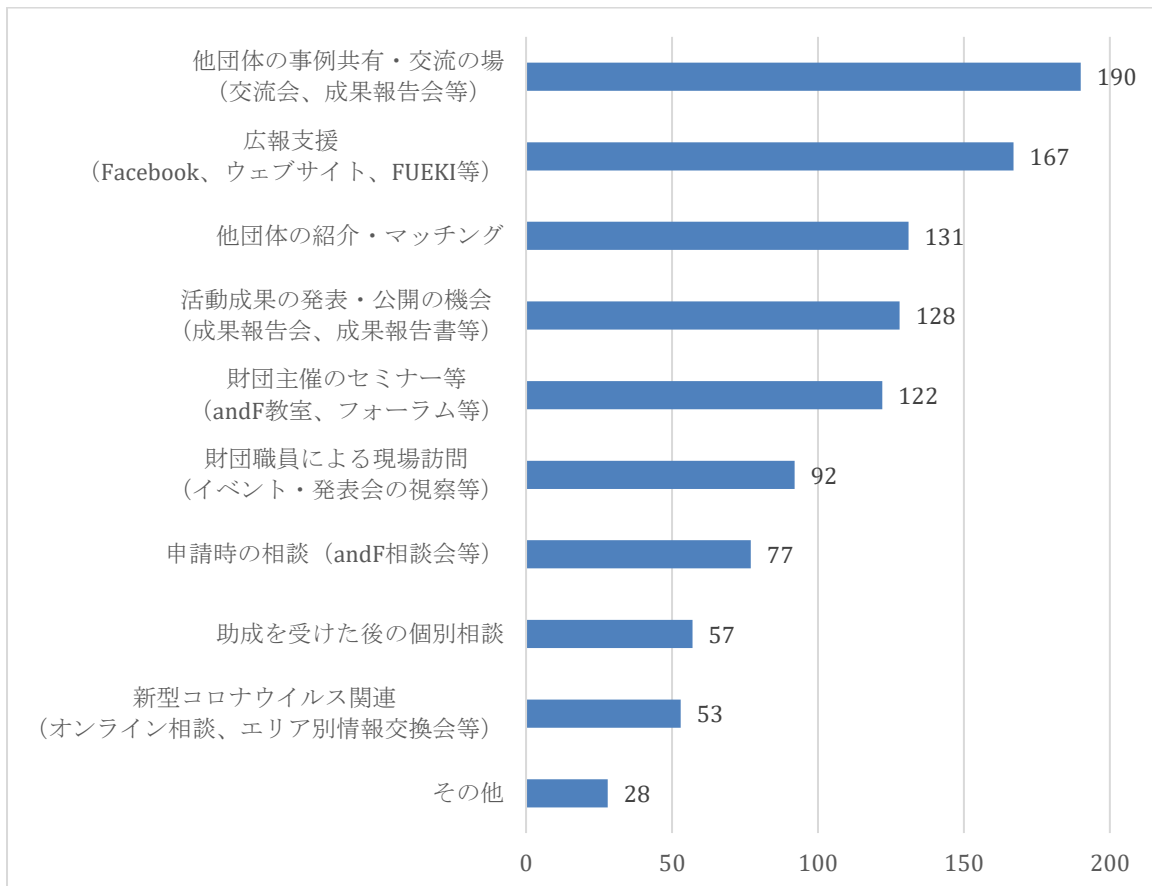


図8 今後受けてみたいフォローアップ

IV. 財団への思い・要望・指摘・財団職員とのエピソードなど自由意見

(回答数：279件)

この設問では、財団に対する自由意見を広く募ることを目的として自由記述での回答を実施した。自由記述式とした理由として、これまでの質問では表現しきれなかった意見や感想を書き出してもらうこと、また調査側が想定した選択肢にとらわれない本心の意見を伺うことを目的としている。

ここでは、記述された回答について共通する単語や要素から以下のとおり分類を行った。それぞれの分類において類似の内容が多くみられた回答、また特徴的であった回答について抜粋し、紹介する。

表11 自由記述の分類

①好意的な意見、感想：229件

財団や助成への謝意：69件

財団職員の対応、人柄に対する謝意：36件

教育、文化への理解と促進：20件

スタートアップ、小規模活動への支援：17件

交流・つながり・広がり：16件

コロナ禍での活動に対する支援：10件

情報提供、アドバイス：8件

資金面：8件

意識の変化：6件

実験的な活動への支援：4件

広報、PR：4件

他の財団との違い：3件

その他：28件

②要望、改善への期待：50件

①好意的な意見、感想：229件

・財団や助成への謝意：69件

もっとも多く寄せられた回答は、助成を受けたことや財団の存在に対する感謝の言葉であった。具体的にどういった点への感謝であるかが述べられた回答については後述する各分類に含めるため、ここに分類する回答は大局的な感想を表すものである。

・財団職員の対応、人柄に対する謝意：36件

先ほどの分類と類似するが、職員が取った具体的な行動、対応に対する謝意について述べられた回答が一定数みられたため別分類とした。

手続き上の事務的な対応のみでなく、活動の現場へ関心を持ち積極的に関与を持とうとする職員の姿勢について多く言及されているほか、手続き等の場面において「親切」「丁寧」「親身」であるといった点を評価する回答が多くみられる。また、助成を受けた活動の現場へ積極的に足を運ぶという対応についても感謝の言葉が述べられている。

表12 自由記述

- ・とても親切で専門性も高く好印象でした。
- ・財団事務局の方には慣れない申請書の書き方を教えてもらったり、ワークショップに参加していただいたり温かく接して下さる方が多くとてもお世話になりました。

(自由記述の内容を抜粋)

・教育、文化への理解と促進：20件

この分類では助成事業および財団への謝意の中でも、「教育・文化的活動を助成対象とすること」とへ言及された回答について集約している。

岡山県のみを対象とした教育・文化活動を対象とする助成を行う民間機関がないことから、このような回答が寄せられたものと推察される。

表13 自由記述

- ・岡山の文化の継続・発展のための拠り所として積極的に活動して頂けることを望んでおります。
- ・研究したい内容について、学校で財源の確保が困難な場合、財団の助成は本当に有難いです。

(自由記述の内容を抜粋)

・スタートアップ、小規模活動への支援：17件

NPO(非営利団体)を対象とした助成金の多くは、申請時の書類において「活動実績」「前年度の収支報告」「団体の事業概要」等の記載を求めることとされている。

これらの申請要件・項目は、助成金を有効に活かすことができる団体であるかどうかを助成機関側が判断するために設けられるものであるが、設立後間もなく実績を示しづらい団体、参加費等を取らず小規模に活動する非営利団体等においては、申請へのハードルが高く感じられる部分でもある。

本助成においては教育・文化の発展のため申請の間口を広く取り、十分な活動実績や組織基盤を持たない団体に対しても採択と支援を行っているが、その思いは採択団体に対しても伝わっているということが窺える。

表14 自由記述

- ・財政的基盤がまだまだ十分に確立していない現段階において、財団の存在はとても大きい。
- ・私たちのような小さな団体に助成いただき、助成以後、皆の意識が変わり、毎年新しいアイデアが出ています。

(自由記述の内容を抜粋)

・交流・つながり・広がり：16件

財団が複数団体をつなぐハブ(車輪の中心部)となり、新たな連携や交流を生み出したことへの感想についてまとめた。交流会において同じ年度に採択された多様な団体が顔を合わせる異業種交流会的な機会を設けたこと、逆に類似する活動同士を個別に引き合わせたこと、また県南の都市部と県北部との人材交流、活動メンバーの年代が異なる団体同士の交流を行ったことなど、ここでは「これまで連携先として想定していなかった他団体」とのつながりが得られたことへの言及が多くみられた。

表15 自由記述

- ・当初は県南から殆ど誰も来ない状況でしたが、職員の方が1人2人と連れてきてくださり、次第に協力者や連絡を取り合う美術関係者が増えていったことが今でも印象的。
- ・たくさんの方が助成を受けられていて、当初はどのようにほかの団体さんとかかわればよいかわからないと思っていましたが、財団主催のイベントがたくさんあることで自然とほかの団体の方々の様子が見れるところがとてもいいなと思っています。

(自由記述の内容を抜粋)

・**コロナ禍での活動に対する支援：10件**

本調査の実施期間は、新型コロナウイルス感染症が全国各地で猛威を振るい、岡山県においても日々感染者数の推移を窺いながら、公共施設や大型施設の閉鎖、学校の休校、イベント開催時の人数制限、企画の中止や延期など、教育・文化活動を行う各団体においても変則的な対応が求められる時期であった。

そのような環境下において、助成期間の延長や事業計画の変更に対する相談対応、緊急助成を設け支援を行ったことへの謝意や感想がみられた。

表16 自由記述

- ・コロナ禍によって申請当初の予定で活動をしていくことが困難な状況になり、計画を何度も変更することになりました。その都度事務局に相談させていただきました。
- ・今回はコロナの影響で予定より2年以上演奏会が先送りになっていますが、引き続き助成をしていただけることになり、団員の意欲が落ちずに活動を続けていくことができます。

(自由記述の内容を抜粋)

・**情報提供、アドバイス：8件**

本部類においては、助成採択後の事業内容や実施団体の運営に対し、その発展や改良に向けて財団からアドバイスを行った点について言及する意見が多くみられた。反対に申請時の書類作成に対するアドバイスについて触れられたものは少数であった。

表17 自由記述

- ・申請相談をしたのが、締め切り3日前だったのですがよくできたなと思います。的確なアドバイスを頂いたのがよかったです。
- ・財団の方にはいつも気さくに客観性を持ったアドバイスやご指南、応援いただいていると感じています。

(自由記述の内容を抜粋し、一部改変を加えている。)

・**資金面：8件**

「スタートアップ、小規模活動への支援」の分類と近似するが、特に資金的支援について言及されたものについて抜粋した。助成金の用途について制限が少ないこと、また活動の継続のために複数回続けて採択を受けられる点について好意的な意見が寄せられた。

表18 自由記述

- ・継続して支援していただけることにより、活動を続けることができます。
- ・思いだけで動いていたときに、資金面のバックアップがあり、安心して活動に集中することができるようになりました。

(自由記述の内容を抜粋)

・意識の変化：6件

助成を受けたことで、団体のメンバーの自己肯定感や意欲が高まったとの感想、事業に対し前向きに取り組むようになったとの感想が寄せられた。

表19 自由記述

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・小さな山間の学校で実践したことを多くの方々にご評価いただき、小さな学校でも先進的な取り組みができるという気概を育むことができた。当時在籍していた児童が、当時の取り組みに自信を持っていたり、今の自分の生き方に生かしているといった声を聞いたこともある。・活動の助成を頂く事で、参加者の開催意欲が高まると共に、結束が強化されました。 |
|---|

(自由記述の内容を抜粋)

回答が10件以下の分類について、次に紹介する。

表20 その他の自由記述

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・実験的な活動への支援：4件・広報、PR：4件・他の財団との違い：3件・その他：28件 |
|--|

②要望、改善への期待：50件

財団に対する何らかの変化、主に要望や改善に対する期待が述べられた回答についてここで分類した。内容については特に多数を占める意見というものはみられず、様々な意見が寄せられる結果となっている。いくつか具体的な提言が含まれるものについて、以下に紹介する。

表21 自由記述

<採択対象に関する意見>

- ・地域の高齢化による地域の課題解決にたいする支援、地域の活性化の支援をもっとお願いします。
- ・貴財団を始め多くの財団では、他団体との協働などにより活動を大きく展開していく団体への助成を優先しているようである。活動参加者のニーズに寄り添ってコツコツ実践している様な団体は、長く続けているが助成対象にはならないことが多い。そういう団体にも助成していただけるような部門があるとありがたいと思う。
- ・最近では個人の活動に対しての助成が少ないのですが、内容によっては取り上げていただきたい。
- ・何度か、助成を受けた後、申請しても通らなくなり、限度があるのかと、思った。もし、規定があるのなら、提示したら良いと思います。
- ・軌道に乗るまで安心して活動を継続できるよう、複数年助成の割合を増やしていただけたらありがたいです。
- ・最近では、NPO等への助成が増えてきていると感じる。可能な限り、文化振興分野もよろしく願います。
- ・教育についても民間団体の使える助成にしてほしい。
- ・これからも変わらず、地域に根ざした幅広い活動に助成頂けましたら幸いです。

<支援に関する意見>

- ・これまで支援された様々な活動（地域、活動内容、ジャンル、活動対象など）のアーカイブがあると、自分たちの活動の励みや拡がりにつながる場所もあるかと思いました。同じ地域でも意外と知らない活動や団体さんがおられたり、似た活動で参加になるお知恵をいただく事もあるかと思っています。分かりやすく、楽しいアーカイブがあると、とても学べそうに思います。
- ・またコロナが落ち着いたら顔を合わせた交流の場が開かれるといいなと思います。
- ・申請手続きが簡素化できればありがたい。
- ・助成交付から3年目とか5年目あたりに（節目に）経過動向調査があっても良いのに…と思っています。この制度がもとで発展している活動の紹介などが知りたいですネ。

<その他>

- ・例えば、TVCMなども含めて、もっと財団の露出を多くし、財団とその事業の認知度を上げてはどうか。

(自由記述の内容を抜粋)

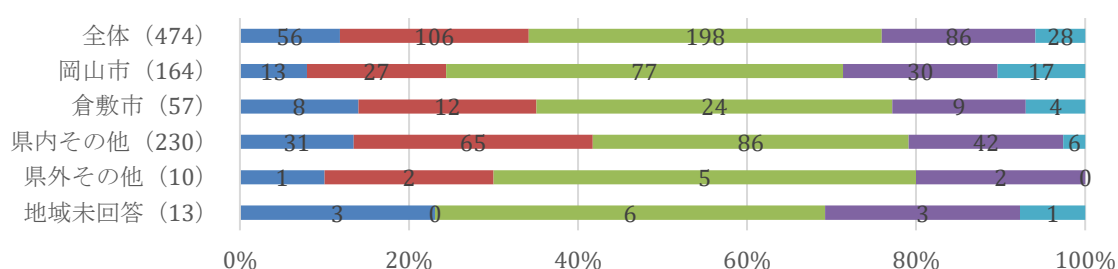
さいごに（活動地域の変化について）

アンケート調査票の「さいごに」では地域の担い手や子どもの教育格差などについて活動地域で10年前と比較してどのような変化を感じるか尋ねた。

「⑤地域に暮らす人が文化・芸術と接する機会」については「増えた」、「やや増えた」との回答を合わせてと48.4%と増加していると感じている人が多かった。「イベントの時だけではなく、日頃からワークショップなどを開き、地域の大人から子供まで楽しめる事業を展開することで、少しずつアートに親しむ雰囲気ができつつある」といったような日頃から接する機会が増えているという記述がみられた。また、「文化施設として総合文化施設や地域美術館があり、また温泉等もあり、芸術観光の町である。そして最近では高校生が町について考え様々な取り組みをしている」といった地域にある資源を活かしつつ、若い人たちが地域について考える機会があるといった様子も窺えた。

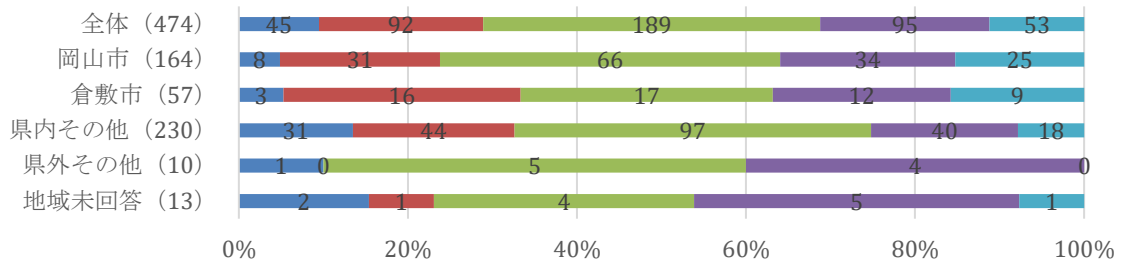
「⑥地域に暮らす子どもの教育の機会格差」については「狭まった」、「やや狭まった」と回答した割合は17.4%に対し「広がった」、「やや広がった」と回答した割合が30.5%おり、他の回答と比較して教育格差が狭まったと感じた人は少なかった。「学校以外での学ぶ機会が増えている」という声があった一方で、「家庭環境の差がそのまま教育格差になっている」とも記述されており、教育の機会は増えている地域もあるが環境による差を埋めるところまではいっていない現状が窺えた。

また、岡山市と倉敷市の都市部とそのほかの市町村で比較をすると「①地域に暮らす人どうしのつながりは」では大きな差がみられた。「強くなった」「やや強くなった」と回答した割合は岡山市では24.4%だったのに対し、倉敷市と県内その他市町村ではそれぞれ35.1%と40.7%だった。特に都市部では「新しい団地などができ隣人が誰かわからない」、「町内会などの地域活動の機会や内容は減らしているため、地域のつながりは個人個人による部分が多くなってきている」といった様子が窺えた。近年ではコロナ禍の影響もあり新しく近隣住民どうしのつながりをつくる機会が少なく、住民どうしのコミュニケーションをとれる機会が減っていることが一因だと考えられる。



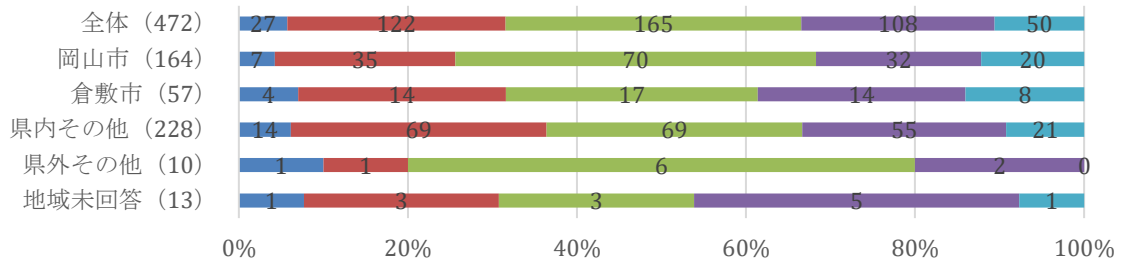
	全体 (474)	岡山市 (164)	倉敷市 (57)	県内その他 (230)	県外その他 (10)
■ 強くなった	56	13	8	31	1
■ やや強くなった	106	27	12	65	2
■ 変わらない	198	77	24	86	5
■ やや弱くなった	86	30	9	42	2
■ 弱くなった	28	17	4	6	0

図9 地域に暮らす人どうしのつながり



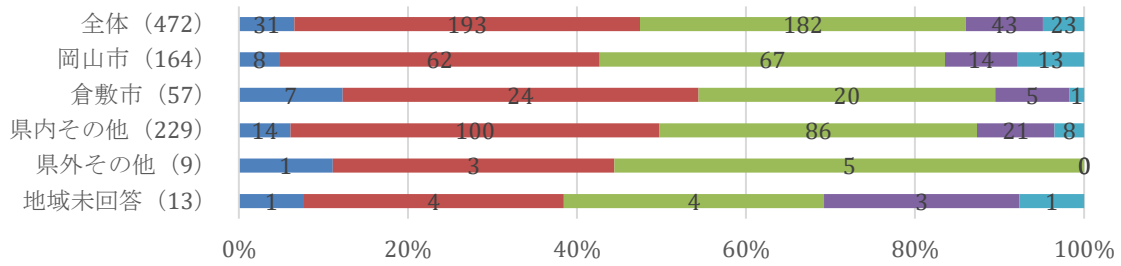
	全体 (474)	岡山市 (164)	倉敷市 (57)	県内その他 (228)	県外その他 (10)
■ 増えた	45	8	3	31	1
■ やや増えた	92	31	16	43	0
■ 変わらない	189	66	17	97	5
■ やや減った	95	34	12	39	4
■ 減った	53	25	9	18	0

図10 地域の活動(町内お祭りや居場所づくりなど)の機会



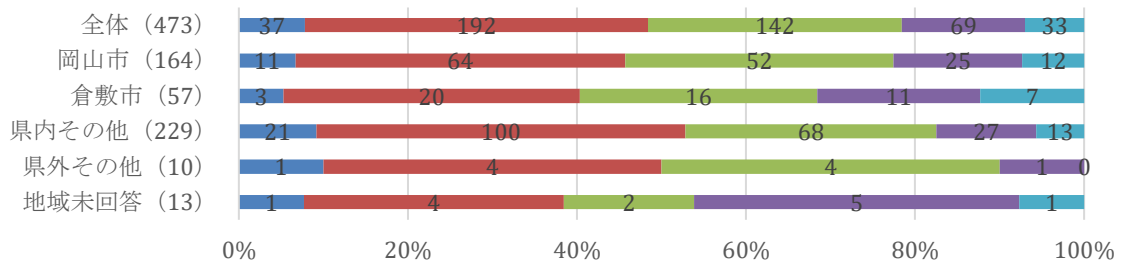
	全体 (472)	岡山市 (164)	倉敷市 (57)	県内その他 (227)	県外その他 (9)
■ 増えた	27	8	7	14	1
■ やや増えた	122	62	24	100	3
■ 変わらない	165	67	20	85	5
■ やや減った	108	14	5	20	0
■ 減った	50	13	1	8	0

図11 地域活動の担い手や参加者



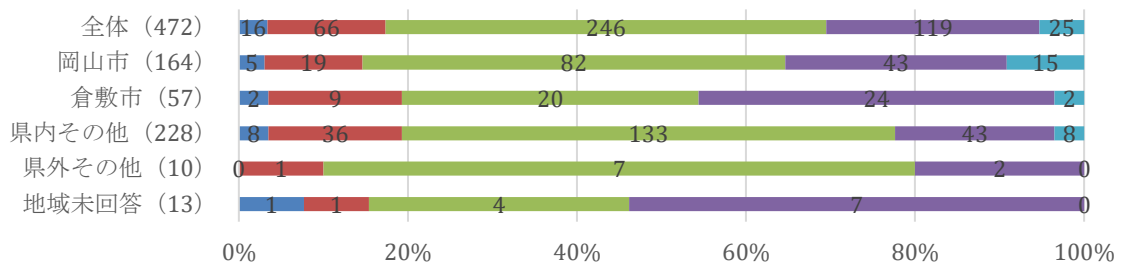
	全体 (472)	岡山市 (164)	倉敷市 (57)	県内その他 (226)	県外その他 (10)
■ 増えた	31	7	4	14	1
■ やや増えた	193	35	14	68	1
■ 変わらない	182	70	17	69	6
■ やや減った	43	32	14	54	2
■ 減った	23	20	8	21	0

図12 活動地域に対する、外部機関（行政やNPO）からの支援



	全体 (473)	岡山市 (164)	倉敷市 (57)	県内その他 (227)	県外その他 (10)
■ 増えた	37	11	3	21	1
■ やや増えた	192	64	20	99	4
■ 変わらない	142	52	16	68	4
■ やや減った	69	25	11	26	1
■ 減った	33	12	7	13	0

図13 地域に暮らす人が文化・芸術と接する機会



	全体 (472)	岡山市 (164)	倉敷市 (57)	県内その他 (226)	県外その他 (10)
■狭まった	16	5	2	8	0
■やや狭まった	66	19	9	36	1
■変わらない	246	82	20	132	7
■やや広がった	119	43	24	42	2
■広がった	25	15	2	8	0

図14 地域に暮らす子どもの教育の機会格差

2. 回答に対する分析

当財団の助成における「教育と文化・芸術の両面から地域社会の課題解決と社会的価値の創造を図る活動を応援し、岡山県の地域づくり人づくりに貢献すること」という目的につながっているかについて、各設問の単集計結果やクロス集計を用いながら岡山大学社会文化科学研究科の青尾謙准教授監修のもと、a)～e)の仮説を立てそれぞれの観点から分析した。

I. 財団の「助成の狙い」に対する分析

a) 活動の規模拡大の基礎を作り、役だったか

ここでは設問のIとIIの回答から当財団の助成が団体の活動基盤強化につながったかを調べた。図1より68.8%の団体が現在も活動を行っていると答えた。

現在活動している団体からは「法人の財務力や、参加者負担だけではなかなか招聘できなかった講師を呼ぶなど、企画の質を高めることができた」「東京から岡山へと引っ越してまだあまりつながりのない中、助成を得ることで公演活動を展開でき、それが新しいコネクションを生み出し、その後の活動の基盤として非常に役に立っている」「助成金申請のために事業活動を明確にすること、企画・予算管理等、法人事務が確立されたことは良かった」などの声が自由記述より窺えた。

助成による金銭的な要因だけでなく、のちの項目で詳しくみていくがマスメディア等への露出増加、助成に採択されたということによる信頼の増加や当財団主催の交流会などによる他団体とのつながりなどによるものが要因であると考えられる。

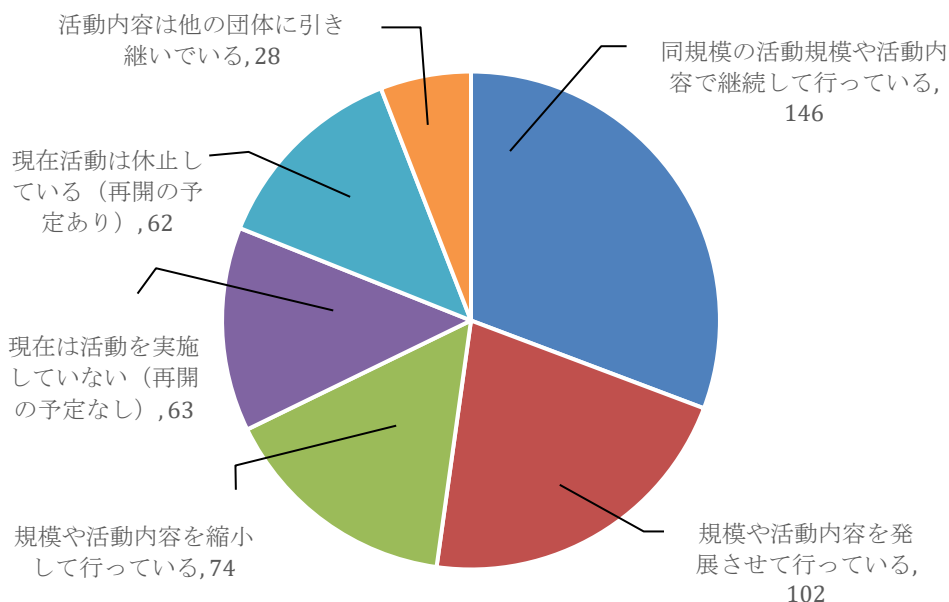


図4 助成を受けた活動の2021年6月現在の状況

b) マスコミ、地域での知名度向上に役だったか

Ⅱ - 1の回答より「活動の規模拡大の基礎作りに役だった」は有効回答数474件のうち294件あり62.0%ある。本助成の活用により活動の規模が広がることに寄与していることがわかった。

「マスメディア等で紹介された」は、163件で34.4%の回答がある。「活動対象者や対象地域が広がった」は、151件で31.9%、「活動の連携先が増えた」140件で29.5%は変化したと回答している。

助成を受けた活動の変化としておよそ3割が、メディアや対象者や対象地域、連携団体などの新たなつながりが生まれていることがわかる。活動が変化することで団体においてもⅡ - 2の回答より有効回答数474のうち、「知名度の向上に役だった（マスコミ、地域での知名度等）」の230件48.5%は、知名度が向上したと感じている。

自由記述として「岡山県内の文化団体に知っていただくきっかけになり、公演に対する信頼や観客動員の増員にもつながった」「マスコミで紹介されたことで地域の人たちより声をかけられることが多くなった」「和菓子の製作をお願いしている老舗の和菓子店亭主の知名度が飛躍的に上がり、美術展の呈茶のデザイン菓子を製作し東京からの注文が増えていった」のように団体の所属する地域での知名度向上だけでなく、県外や都市への知名度も向上し連絡が増える連携が生まれるとの回答もある。

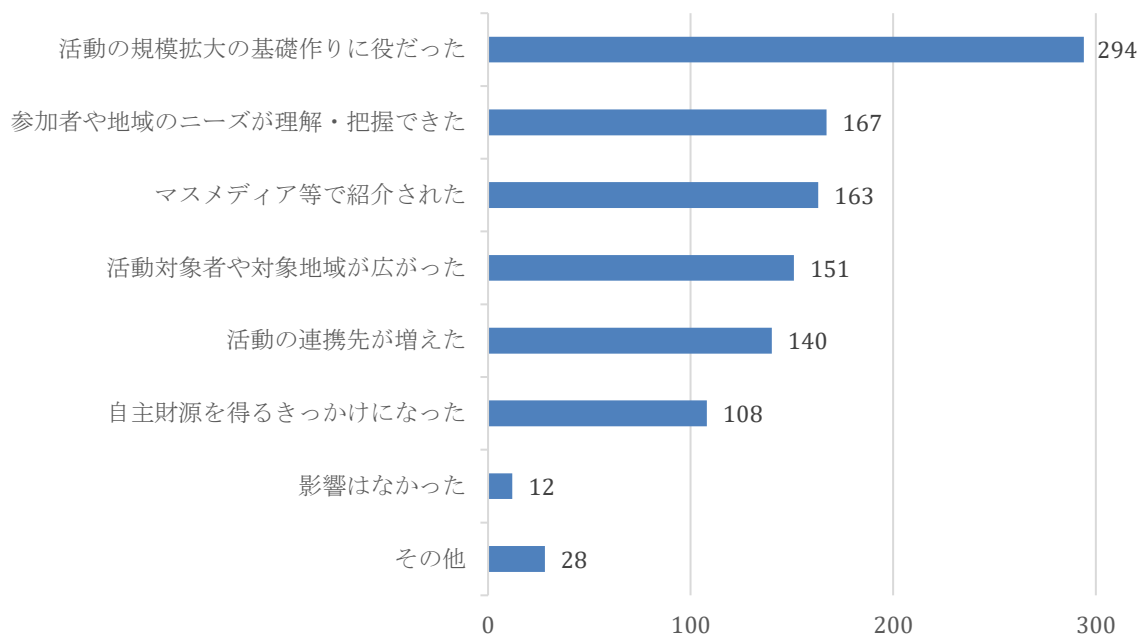


図5 助成を受けたことでの活動の変化

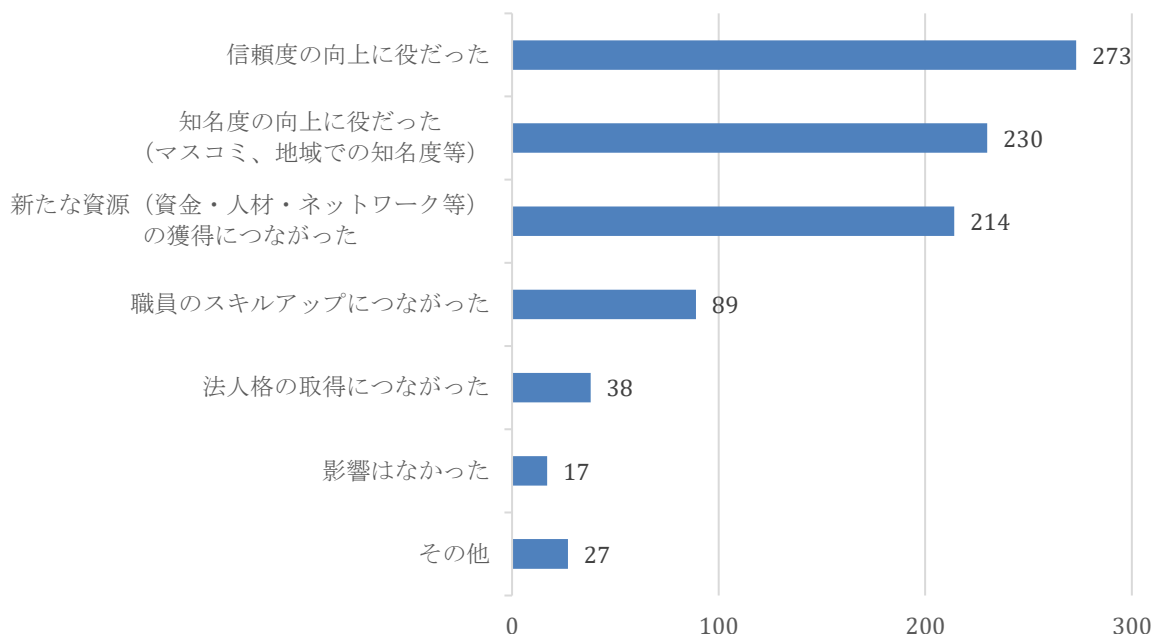


図6 助成を受けたことでの団体の変化

c) 信頼度向上に役だったか

Ⅱ-2より助成金を活用した団体の変化として「信頼度の向上に役だった」は、最も多い回答があり、有効回答数474のうち273件で57.6%に変化が起きている。「法人格の取得につながった」と回答している団体は38団体あり、法人格を得るには団体の基盤や一定の社会への信頼性が必要であることから信頼度の向上につながっていることがみえる。回答団体で法人格を持つ団体は51団体になる。

自由記述の中には「地域の団体や他の団体に、公募助成を受けたことで事業の説明に理解を得やすくなった」「初めての取り組みでも保護者からの信頼を得やすと感じた」「町役場に対して、自分たちで自主的に活動している団体です。と説明しやすく、他の教育機関に受け入れてもらいやすかった」「当時発足したばかりで、どんな団体か理解して頂く時に信頼性が高まった」と団体発足時や活動を新規に取り組み始めた場合にも本助成を活用していることで信頼性が上がり、行政や学校などの公的機関、地域との連携時にも役に立っているといえる。

d) 新たな資源（資金・人材・ネットワーク等）獲得につながったか

Ⅱ-2から、新たな資源（資金・人材・ネットワーク等）獲得につながったとの回答は、有効回答数474件のうち214件で45.1%ある。

自由記述の中には、「話題の乏しい中山間周辺地域であり、会を設立する前段階である中、地域で大きな話題となった。地元での協賛金調達に効果があった」「構成人数は15名から21名に増えた。近年は近隣大学を始め、他大学との連携の機会も増えた」「一緒になって子育ての問題を共有しようとするコミュニティが立場を超えてできていたと思う」

また「助成を得ることで一定期間継続的に行われる事業という認識があったと思う」「災害や生物多様性等の専門家の方々に地域に入ってもらうことができた。またその専門家の方々に對して、プログラムに参加した地域のみなさん自身が、自分の言葉で地域の災害や生物多様性について語ることを通じて、新たな地域資源の獲得が可能になったと考える」「当初は建物の利活用に注目していましたが、次第に集まってくる協力者のネットワークや活動経験の蓄積も大きな価値あるものとして認識するようになってきた」との意見があった。

このことから団体運営資金の獲得や共に活動する人材や協力者の獲得、連携するネットワークの獲得につながったことがわかった。

e) 実践を通じた学びによって地域のニーズが理解できたか

ここではⅠ活動の継続状況に関する回答と、Ⅱ-2における「参加者や地域のニーズが理解・把握できた」との回答についてクロス集計を行った。

結果として、活動を継続している団体ほど、参加者や地域ニーズへの理解・把握ができているとする割合が高い傾向となっている。Ⅰにおける自由記述において、活動を継続している団体から「常に対象者のニーズをリサーチしながらその時々にあう活動を進めている」との回答が寄せられており、活動の実践と地域ニーズの把握は助成を受ける事業において両輪であることが窺える。

表22 活動状況と参加者や地域のニーズ

		参加者や地域のニーズが理解・把握できた
継続	規模や活動内容を発展させて行っている	21.0%
	同規模の活動規模や活動内容で継続して行っている	24.0%
	規模や活動内容を縮小して行っている	17.4%
休止	活動内容は他の団体に引き継いでいる	7.8%
	現在活動は休止している（再開の予定あり）	19.2%
	現在は活動を実施していない（再開の予定なし）	10.8%

a)～e)の考察より

時代の変化によるものがあつたものの助成団体の活動が地域に好影響を及ぼしたのではないかと考えられる。ただ、実感したとまでは至れない団体も多くいたので今後とも地域社会の課題解決と社会的価値の創造を図れるよう注力する必要がある。

また、およそ半数以上が知名度や信頼度の向上に役に立ったと回答しており、そこからネットワークの拡大につながるなど団体や活動の幅を広げることにも寄与しており、地域社会の課題解決と社会的価値の創造を図るための活動を発展させていくことにも役立っていることがわかった。

II. フォローアップに対する考察

f) フォローアップの有効性

当財団が実施するフォローアップについて、採択事業に対しどのような効果を提供できているかについて考察を行った。

初めに採択団体の所在地域と、受けたフォローアップの関係性について整理する。当財団が位置する備前エリアの団体と、やや遠方にあたる備中・美作エリアに所在する団体において、利用するフォローアップの種類について大きな偏りはみられなかった。

表23 採択団体の所在地域と受けたフォローアップ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
備前エリア	9.4%	3.9%	5.1%	32.0%	20.9%	12.2%	7.6%	5.5%	3.4%
備中エリア	8.2%	4.7%	5.1%	30.6%	23.1%	14.5%	5.5%	7.1%	1.2%
美作エリア	11.8%	8.8%	10.6%	23.5%	20.6%	9.4%	5.3%	7.1%	2.9%

次に、Iの現在の活動状況とⅢ問1の受けてよかったフォローアップの相関について調べた。「4. 活動成果の発表・公開の機会（成果報告会、成果報告書等）」、「5. 他団体の事例共有・交流の場（交流会、成果報告会等）」について、ほとんどの活動状況について受けてよかったとする回答が多くみられた。

表24 現在の活動状況と受けてよかったフォローアップ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
規模や活動内容を発展させて行っている	7.5%	6.6%	7.1%	26.6%	18.7%	11.2%	10.4%	8.7%	3.3%
同規模の活動規模や内容で継続している	8.8%	5.7%	4.2%	30.7%	21.5%	13.8%	6.1%	5.4%	3.8%
規模や活動内容を縮小して行っている	10.4%	6.7%	10.4%	28.1%	24.4%	8.9%	4.4%	3.7%	3.0%
活動内容は他の団体に引き継いでいる	12.2%	4.1%	6.1%	34.7%	24.5%	12.2%	0.0%	6.1%	0.0%
活動は休止している（再開の予定あり）	9.4%	3.4%	6.0%	28.2%	17.1%	20.5%	5.1%	7.7%	2.6%
活動を実施していない（再開の予定なし）	12.0%	1.9%	6.5%	28.7%	25.9%	10.2%	7.4%	6.5%	0.9%

No.	内容
1	申請時の相談（andF相談会等）
2	助成を受けた後の個別相談
3	他団体の紹介・マッチング
4	活動成果の発表・公開の機会（成果報告会、成果報告書等）
5	他団体の事例共有・交流の場（交流会、成果報告会等）
6	広報支援（Facebook、ウェブサイト、FUEKI等）
7	財団主催のセミナー等（andF教室、フォーラム等）
8	財団職員による現場訪問（イベント・発表会の視察等）
9	新型コロナウイルス関連（オンライン相談、エリア別情報交流会等）

g) 求められているフォローアップ

ここでは受けてよかったフォローアップと受けてみたいフォローアップの相関についてみてみた。

どのフォローアップにおいても受けてよかったと回答したフォローアップについてまた受けてみたいとの回答が多かった。またどの回答においても「3他団体の紹介・マッチング」、「4活動成果の発表・公開の機会（成果報告会、成果報告書等）」、「5他団体の事例共有・交流の場（交流会、成果報告会等）」、「6 広報支援（Facebook、ウェブサイト、FUEKI等）」について受けてみたいとの回答が多くみられた。また、自由記述においても「他団体との交流でネットワークを広げたい」や「まだ活動が認知されていないので広報の協力をお願いしたい」といった声が見られ、助成団体にとって有用な機会となっていることが窺える。また、「インターネットを活用した広報活動について教えてほしい」、「セミナー等をオンデマンドで見られるようにしてほしい」など時代に応じた要望もみられた。

表24 受けてみたいフォローアップと受けてよかったフォローアップ（複数回答可）
受けてみたい

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	12.9%	7.3%	14.5%	10.5%	16.5%	13.7%	9.7%	8.9%	6.0%
2	9.7%	10.9%	8.5%	10.3%	17.6%	12.7%	14.5%	9.7%	6.1%
3	4.3%	8.1%	15.2%	11.8%	16.1%	15.6%	14.2%	9.0%	5.7%
4	7.3%	4.7%	11.9%	15.7%	18.3%	16.7%	13.5%	8.3%	3.5%
5	5.7%	4.6%	12.7%	12.2%	21.4%	15.7%	13.1%	9.6%	5.0%
6	5.2%	7.1%	11.7%	11.1%	16.8%	19.0%	12.5%	10.3%	6.3%
7	4.3%	6.3%	11.3%	12.9%	16.8%	14.5%	17.2%	10.9%	5.9%
8	5.6%	7.4%	10.7%	12.1%	16.3%	13.0%	14.4%	12.6%	7.9%
9	6.5%	4.6%	12.0%	12.0%	16.7%	11.1%	12.0%	11.1%	13.9%

f) ・g) の考察より

特に評価の高い「4. 活動成果の発表・公開の機会（成果報告会、成果報告書等）」、「5. 他団体の事例共有・交流の場（交流会、成果報告会等）」については実施の継続が望まれる。また「再度同じフォローアップを利用したい」という意見が多くみられた点については、各自由記述より「内容が不十分だったため再度利用したい」というものではなく、「内容がよかったため再度参加したい」という感想であったため、「どういった点がよかったか」を丁寧に拾い上げつつ、今後の実施に活かしたい。

第3章 総括

1. 専門家からの提言

本調査を振り返っての気づき：岡山の「インフラ」としての財団助成

岡山大学社会文化科学研究科 准教授／助成財団センター 特別参与
青尾 謙

今回、福武教育文化振興財団様（以下、「財団」と略）のお声がけを頂き、途中から外部専門家として本調査に関わらせていただきました。財団並びに調査の実施をされた岡山NPOセンター様には大変ご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。

本調査は僕にとっても大変貴重な学びの機会となりました。3年前に岡山に来てすぐに、ある方から「財団の助成は地域で活動する人の登竜門だから、ここで助成されて信頼を得るんだよ」と教えて頂き、本調査ではあらためてそれが確認されました。また、助成を受けられた方々の多様性や、多くの回答者の方々が、地域で継続して活動を行っておられること、そして都市部以外の地域の方も含め、多くの方が地域の現状について前向きに見ておられることなど、自分が予想していなかったことも知ることができました。

本調査を通じて、財団助成の持つ意味の一端が明らかになったように思います。岡山県内で、誰か（「普通の人」も含め）が新しいことをやりたいと思った時に、最初の入り口として頼れる財団助成が存在していること、更にそこから更に財団と関わる人のネットワークに触れ、成長の機会を得られることの意義は、非常に大きいと言えます。

これは財団が岡山県内の教育文化分野で、それこそ「海のものとも山のものとも」わからない活動に対して、地道に、丁寧に、そして懐深く、助成とフォローアップ支援を続けてこられたことの成果であり、その見識に深く敬意を表したいと思います。多くの助成財団や機関で、「目に見える成果」や「社会課題の解決」といった、外に向けて説明しやすい「結果」を求める傾向が強まる中で、地域の財団として腰を据えた取り組みを続けてこられた結果と言えます。

全国と比べても、岡山にはこうした地域での活動を行う方々、そしてそれを支える地域の財団等の関係者の「エコシステム（生態系）」がしっかりと存在し、機能しており、それがまた地域での日々の活動を支える、人と人のネットワークになるという循環を生んでいるように思います。その中心の一つが財団であることが、本調査に寄せられた回答から、改めて確認できたと思います。

現在は県内の多くの地域で高齢化が進んでおり、また2020年以降は新型コロナウイルスのために地域での活動にも制約がかかっていますが、新たな担い手も含めた「岡山の地域エコシステム」の更なる発展のため、今後も財団の活動に期待したいと思います。

2. 県内中間支援(岡山NPOセンター)からの提言

特定非営利活動法人岡山NPOセンター
理事・事業部長 高平 亮

福武教育文化振興財団（以下、財団）の創設35周年、誠におめでとうございます。経験や実績では財団の足元にも及びませんが、同じく市民活動の支援に携わる組織として、助成対象者とのよりよいパートナーシップ構築に向けた提言などを述べさせていただきます。

「時代の変化に即した目的設定」

財団や助成事業の変遷を拝見すると、「教育」と「文化」を核としながらも社会の変化に柔軟に対応した目的設定がなされていることがわかります。顕在化した課題・ニーズへの対応に限らず、社会の変化を予測したうえで、革新的あるいは予防的なプログラムの開発を求められる市民活動においては、資金提供者が先見性・柔軟性を有していることは非常に頼もしいことであり、今後も同様の方針を維持していただきたいと思います。

「文化振興活動への継続的な支援」

コロナ禍において「文化は不要不急か」といった議論が一部でなされましたが、文化は、私たちの生活に必要不可欠なものでありながら、状況により、活動等の優先度・重要度を低く評価されることがあります。そのような社会の傾向とのバランスを保つため、財団にはこれからも地域の文化振興を支える社会基盤として、文化振興の意義を発信し続けるとともに活動を担う市民を支え続けていただくことを期待します。

「事業評価の導入」

今回の調査結果を参照するまでもなく、財団が地域の教育・文化の振興に大きな貢献をされていることは疑いのない事実ですが、今回の調査が2021年時点の助成対象に対する定点的な観測であることや調査実施主体（当法人）の力量不足も相まって、助成対象や地域にもたらされた成果・恩恵などを十分に示すことができたとは言えません。助成事業の成果測定とより効果的な見直し・改善のためには評価が継続的に実施されることが理想的であり、今回の調査結果をふまえてさらに踏み込んだ評価の設計・実施につなげていくことを提案します。

「フォローアップの見直し」

財団のフォローアップに対するアンケート結果を「これまでに受けてよかった（満足度）」と「今後受けてみたい（期待度）」として分類した場合、満足度が低く、期待度が高いメニューは「他団体の紹介・マッチング」となりました。より効果的・効率的にマッチングを実現するためには、情報・人脈・場づくり等が重要になると思われるため、同様の事業を実施しているその他の財団法人や中間支援組織（当法人）などとの日常的な情報交換や協働での場づくりをご検討いただきたいと思います。

「助成財団・支援組織の相互研鑽」

財団は地域の教育・文化振興に携わる市民活動団体にとって身近かつ頼れるパートナーとして認識されており、それは「財団への思い・要望・指摘・財団職員とのエピソードなど」の回答が単純な資金提供への謝意で完結していないことに現れていると思います。そのような財団及び財団職員が蓄積されている情報・経験が市民活動のさらなる発展のために広く共有・活用されることを期待しています。岡山県では幸いにも助成財団、自治体、支援組織による情報交換の機会が設けられているため、この機会を通じて、相互の「助成事業」や「フォローアップ」の研鑽が重ねられていくことを願います。当法人もその一員として財団と共に経験と実績を重ねていけるようさらなる努力を重ねてまいります。

3. 財団総括

本アンケート調査では、回収率38.3%、508件の回答が得られ、財団への貴重なご意見と共に助成を受けた活動の現在の状況や当時の変化や反応について伺うことができました。

お忙しい中にもかかわらず本調査にご協力いただきました皆さまに、改めて心から御礼申し上げます。

本調査の対象となった1327件の内、約7割の活動が何らかの形で継続されていることが分かりました。原則単年度限りの助成金の成果を、以降にわたって約7割もの活動が継続されていることは、助成が単に一過性のもので終わらずに、活動継続の基盤作りに少なからず貢献していることが分かる結果となりました。

また、多くの団体で助成をきっかけとして組織や活動に弾みがつき、マスコミなどにも取り上げられ、地域での信頼も増す、という効果が見られたと回答しています。

この調査を行った中から、活動が継続、発展している事例として、「実績を評価され行政から業務委託を受けることになった」「ローカルで実績を重ね全国規模財団に挑戦することができた」「助成金で始まった活動が全国、世界へとひろがった」「地域で認知され町内会費の一部を活動資金に充てることができています」「空き家や空農地の調査や開拓、空き家の持ち主との交渉や情報交換をもとに、空き家の整理、空地の整備等に展開した」などがあげられます。

助成活動の効果はすぐに明確に表れることは難しく、助成をきっかけとして数年かけて信用を得ることができ、ネットワークが作られることにより、大きな効果が見られるようになっていくものだと考えています。

フォローアップについては、成果報告会や報告書など他団体との交流や事例共有、マッチングを望む声が多くみられました。コロナ禍で実施した少人数でのエリア別オンライン情報交換会は「他の団体の活動状況を知ることができた」「アドバイスをいただいた」など参加してよかったとの声を多くいただきました。一方で、「フォローアップということを意識したことがなかった」「受けたことがない」という自由記述もみられました。周知を強化すると共に、多くの団体が助成期間中はもとより終了後も活動が継続されるような支援に努めて行くことの必要性を改めて感じます。

2022年度の募集から電子申請を導入いたします。皆さまにとって申請する手続きが簡素化され、活動への最初の「第一歩」が踏み出しやすくなることを期待しています。

引き続き、財団では助成先とのコミュニケーションを深め、助成制度や助成先団体の支援の在り方の継続的な改善に努めてまいります。

最後になりましたが、本調査の監修としてご尽力を賜りました岡山大学青尾謙准教授、ならびに本調査の実施を担っていただきました特定非営利活動法人岡山NPOセンターの方々に、心よりお礼申し上げます。

1. アンケート依頼文

福教文発第 3-6-1 号
令和 3 年 6 月 7 日

2008 年度から 2020 年度に
教育文化活動助成を受けられたみなさまへ

より効果的な助成事業にするためのアンケート調査
ご協力のお願い

公益財団法人福武教育文化振興財団
理事長 松浦 俊明

平素より財団の事業にご理解をいただき誠にありがとうございます。

おかげをもちまして、当財団はことし設立 35 周年を迎えることとなりました。当財団事業の柱である助成事業が、更に効果的で地域振興に貢献できるものになりますようアンケート調査を実施いたします。つきましては、みなさまにご協力いただきますようお願いする次第です。

本調査は、2008 年度から 2020 年度に助成を受けられた団体・個人の皆様（約 1,300 団体）にご案内しております。その後の活動の成果や効果等をはじめ、財団職員が実施するフォローアップ（成果報告会や情報提供など、様々な非資金的な支援）や財団へのご意見等についてお伺いし、よりよい改善へつなげていくことを目的としています。お手数をおかけしますが、趣旨ご理解の上、この機会に是非、皆様の声をお聞かせいただければ幸いです。

なお、本調査は、全国的な信頼と実績を持つ特定非営利活動法人岡山 NPO センターの全面的な協力を得て、実施いたします。いただいた個人情報は、「個人情報保護に関する法律」及び当財団プライバシーポリシーに則し個人情報として厳正に管理を徹底し、当財団及び特定非営利活動法人岡山 NPO センターからの各種ご連絡、お問い合わせ、記念誌発送（希望者）のみに使用いたします。それ以外の目的で利用する場合は、あらかじめ同意をいただきます。

また、今後の助成申請等に影響を及ぼすことはありませんのでご安心ください。

皆様からいただいた回答は、今後の財団の参考にさせていただくとともに、後日取りまとめ、記念誌や冊子、ホームページ等でも発信し、活動を続けられる皆様の一助になればと考えております。

コロナ禍で従来と同じ活動は難しい状況ではございますが、これからも一人ひとりの「よく生きる」ことができる地域づくり、人づくりを目指し、皆様の教育文化活動を応援してまいります。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【本件についてのお問い合わせ先】
公益財団法人福武教育文化振興財団
担当：和田・小川 Tel：086-221-5254

【参考資料：2020年度募集要項】

公益財団法人 福武教育文化振興財団 2020年度

教育文化活動助成

教育文化の育つ力によって
岡山県が豊かで充実した社会になる。
そのためのチャレンジやってみる。を応援します！

募集要項

皆さまからのご応募お待ちしております。

2019.12.1 から
2020.1.31 まで
【必着】

福武教育文化 公募要項 <http://www.fukutake.or.jp/oc/>

公益財団法人 福武教育文化振興財団 2020年度

教育文化活動助成

福武教育文化活動助成は、教育と文化活動の両面から国家社会の課題解決と社会的価値の創造を図る活動を応援し、岡山県の人びとが、地域づくりや活動などに主体的に参加し、積極的参加、自主活動を展開していく。このうち教育文化活動助成では、皆さまの教育文化に関する有意義な活動支援を促進し、活動が活性化することを期待しています。

めざすところは、地縁の枠で存在し文化が活動の場となり、ここから生まれる活動がコミュニティアクション、人づくりへとつながり、行われる活動がもたらす効果は大きいと考えています。

助成対象となる活動（申請区分）

1. 教育及び文化活動による地域社会の課題解決や社会的価値の創造に取り組む活動
2. 教育及び文化活動による次世代育成に取り組む活動
3. 教育の質の向上や普及に資する活動
4. 文化活動の質の向上や普及に資する活動

教育及び文化活動による活動助成対象となります。

助成金

1件あたりの上限は30万円です。
※活動の規模や内容、活動の計画などによって、申請金額も異なる場合があります。
(※各1年度あたり、応募数24件以下の教員、34件、55名250名、平均助成額は25万円です)

助成対象期間

2020年4月1日～2021年3月31日

応募資格

岡山県内で上記の助成対象となる教育文化活動を行っている団体・個人

応募上の留意点

- 活動期間(平日・午後)・参加費・役員費・運営経費等の場合は、併用等(複数)が認められ、申請した活動が認められる考えますので、プロジェクトチーム等、団体の関係者より申請してください。
- 異なる学術研究や趣味・娯楽の活動は対象となりません。
- 収入源以外の団体の補助金、助成金が含まれていても差し支えありません。また、助成対象に該当しない事業者(個人)の活動でも可。
- 政治活動や選挙運動を主たる目的とする団体や、歴史的価値や文化の保存が目的とする団体は対象となりません。

応募手続き（メール申請ができるようになりました）

財団公式 web サイト（<http://www.fukutake.or.jp/oc/josel-e.html>）から
申請書様式をダウンロードし、AまたはBのいずれかの方法でご応募ください。

福武教育文化 公募要項

A メール送信での応募

上記のweb サイトから「2020年度教育文化活動助成 申請書A」もダウンロードし、申請書（アンケート含む）と添付資料を作成し、メール添付にて申請してください。

1. 申請書様式（※Aファイル）、「申請書」、「添付資料」をダウンロードする。
2. 「申請書」に入力する。
3. 「添付資料」を作成する。【注意】
4. 「申請書」、「添付資料」のファイル名を申請団体名に置き換えて保存する。
5. 作成した「申請書」と「添付資料」をメールに添付し、送信する。
6. 正常に送信されると、「受付完了メール」が届きます。

✉ 申請受付専用メールアドレス：eczaidan@gmail.com

<注意事項>
※申請書は「印刷用紙」のダウンロードは必ず申請団体名にしてください。
※印刷用紙はA4用紙3枚（「申請書」はA4用紙1枚です）、取扱説明書が添付されています。

B メール送信がご利用できない場合

上記の「申請書」に必要事項をご入力いただき、「申請書」と共に事務用紙まで郵送にてお送りください。

※申請書のダウンロードができない場合はお問い合わせください。
※申請書の印刷用紙は、印刷用紙に添付する添付資料、及び申請書Aファイル（A4用紙3枚）に別紙印刷用紙として別紙に添付し、印刷用紙の半量に関する資料としてお送りください。

申請書類送先

〒700-0806 岡山市北区広瀬町1番5号 ベネッセコーポレーション広瀬町社屋
公益財団法人 福武教育文化振興財団 事務局

受付期間

2019.12.1 から 2020.1.31 まで 【必着】

審査

外部有識者からなる審査委員会を設け、採否をご決定します。
採否の可否にかかわらず2020年1月末までに審査結果をお知らせいたします。
ただし、審査の結果・決定理由、採否の可否にかかわらずお問い合わせには応じられませんので、あらかじめご了承ください。

審査の視点

- 活動の目的及び内容が助成の趣旨に即したものであること
- 活動の継続性が高く、活動の計画が明確であること
- 様々な面において社会に波及効果をもたらすことが期待できること
- 地域とより良いコミュニケーションが構築できること
- 活動内容が認知されていること
- 活動内容が広く認知されていること
- 活動が社会性に繋がったものであること
- 特定の団体や組織内での活動が中心である活動は、採否が厳しくなります。個人の申請であっても、実態が個人活動に留まらず、幅広い関係者へ波及効果がある方が採否は高くなります。
- 活動資金の確保が適切であること
- 前記として、団体の組織や役員に対する支出、高額の機材の購入費等には充当できません。
- 活動の開催頻度についても検討されること

助成決定後

- 助成金の交付
2020年4月下旬、ご指定の銀行口座等に振り込み予定です。
- 助成決定者の義務
① 財団の助成による事業の記録（チラシ、パンフレット、web など）や活動記録には必ず当財団のロゴを掲載していただくことをお願いします。
② 活動記録が完了後1ヶ月以内に、成果報告書と会計報告書をご提出ください。報告書の提出方法は助成決定後、改めてご案内いたします。
③ 当財団が主催する助成の成果報告会・交流会に、出席を望む方は年々その翌年、代表者又は代理の方にご出席をお願いします。
④ 活動の記録に付添ったことがありますが、ご協力をお願いします。

事前相談会（要予約）

申込【個別】相談会 2019年11月1日～2020年1月20日（09:00～11:00又は13:00～16:00）
1回限1時間程度です。電話又はメールなどで事前に日時をご相談ください。

申込【印刷】相談会 2019年11月1日～11月29日
1回でも参加者が5名以上の場合はお出しします。事前までお問い合わせください。

申請書類送先及びお問い合わせ先

公益財団法人 福武教育文化振興財団 事務局
〒700-0806 岡山市北区広瀬町1番5号 ベネッセコーポレーション広瀬町社屋

☎ 086-221-5254 ☎ 086-232-3190

✉ 申請受付専用：eczaidan@gmail.com その他問合せ：eczaidan@fukutake.or.jp

連絡 岡山県、岡山県教育委員会、岡山県民会、岡山県庁

公益財団法人福武教育文化振興財団 設立35周年事業
教育文化活動助成に関するアンケート調査
—岡山県の人づくり、地域づくりにつながるより効果的な公募助成にするために—

編集・発行：公益財団法人 福武教育文化振興財団
岡山県岡山市北区広瀬町1-5 株式会社ベネッセコーポレーション広瀬町社屋
TEL 086-221-5254 Email eczaidan@fukutake.or.jp
監 修：青尾 謙（岡山大学社会文化科学研究科 准教授／助成財団センター 特別参与）
調査委託先：特定非営利活動法人 岡山NPOセンター
岡山市北区表町1丁目4-64 上之町ビル3階
発 行 日：2021(令和3)年12月1日

